

実施クラス				実施日		実施保育者名
5	歳児	だいち	組	5	月 29 日 (木)	諏訪 奈梨美
● 実施計画						
活動テーマ						
サイエンス～天気～ 雨と雪はどこからくるの？						
活動テーマに関する 日頃の興味関心について						
気候が暑くなってきたこともあり、散歩時は今日の気温は何度くらいか考える姿がある。						
活動スケジュール				環境設定 ・ 準備物		
時間	内容					
10:00～10:05	・①で行った天気についてホワイトボードで振り返りながら雪の天気について考える。 ・雪が降る時はどんな日か考えたことを伝え合い、ホワイトボードにまとめる。 ＜実験1＞ ・空気中から水を取り出す実験を行う。金属製のボールに子どもが水をいれて、実際に触る。氷を入れるとどうなっていくか考え、意見を伝え合う。 ・保育者が用意した氷を触ったあと水の中にいれて氷が溶けていく様子を観察したり、水温の変化に気づいたりする。ボールの周りに水滴がついたことに気づいた際、どこから発生したか考えを伝え合う。 ・ 同じ実験を色水を使ってどうなるか予測してから行なっていく。 ・色水がボールの周りにつかないことを子どもと一緒に考えてから、ついた水は空気中にある水分であることを確認する。			【環境設定】 ・2グループに分けて、近くで観察できるように道具を用意する ・針金の扱い方を説明する ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を		
10:05～25				【準備物】 ＜実験1＞ 空気中の水を確認する実験 ・プラスチックコップ ・割りばし ・氷 ・常温の水 ・常温の色水 ・塩 ＜実験2＞ 雪の結晶を作る実験 ・フェルト（暑さ1.5mm程度） ・針金（太さ0.8mm程度） ・プラスチックコップ ・アクリル樹脂用接着剤 ・はさみ		
10:25～10:40				・ホワイトボード、マーカー ・写真や図を掲示するためのマグネット		
10:40～10:50				■参考資料 ・雲、雨、雪の発生原理の図 ・雪の結晶の画像		
10:05～25	・フェルトに針金を通し、コップに立つように設置する。 ・接着剤をコップの中に流し込み、変化を観察し気づいたことを発表し合う。			【事前準備】 ・フェルトと接着剤の実験を予め検証しておく。		
10:25～10:40				【実験】 ＜実験1＞ 空気中の水を確認する実験 ①金属のコップに半分より少し多めに水を入れる ②①のコップに氷を入れ、割りばしで混ぜる ③金属のコップの周りの変化を観察する ※水の実験を行った後、コップの中を色水にして実験を行い比較する ＜実験2＞ 雪の結晶を作る実験 ①フェルトをはさみで5cm程度の高さの木の形に切る ②針金を9cm程度の長さに切り、折り曲げて立てられる形状にする ③フェルトの中心に針金を差し込んで、フェルトが立つようにする ④プラスチックのコップを1/3くらいの高さに輪切りにし、フェルトを中に立てる ⑤アクリル樹脂用接着剤の液をプラスチックコップの中に注ぎ、フェルトの下部分をひたす※換気に注意する		
10:40～10:50						

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入で雪はどのような日に降るか話し合うと「寒い」「晴れじゃなくて曇り」「冬」など考えを述べたり、実験で見て感じたことを言語化したりと自分の意見を発表する姿があった。 ・実験の細かい約束事を守りながら、グループの友だちと声を掛け合い協力しながら準備や片付けをしていた。 ・振り返りでは、前回見た図を覚えていた児が雨や雪の発生の仕方を言葉で説明する姿があった。	【子どもの姿・声】 ・氷をいれた水を触てみると、「だんだん冷たくなってきた」「雪みたいに冷たい」と思いを言葉で表現。 ・「ボールの周りに水がついてる」→氷が溶けてついた・中の水が外に出てついたと考える。 ・色水ではなく透明の水がつくことに気づき、何でだろうと考える姿があった。 ・フェルトの周りに白い結晶ができると「雪ができた」と喜びを共有し合う。時間は経つとなくなり溶けたことを実感する。 【保育者との関わり】 ・ボールの周りについた水が、周りの空気が冷たくなった水であることを理解できるよう声掛けし促していった。 ・活動中のつばやきやつながりを受け止めていき、天気への興味関心が深まるような言葉を返していった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・今は冬ではないので雪はあまり身近ではないが、イメージや経験したことを思い出しながら言葉で発表することができていた。 ・実験の予測と結果が違った際、真剣な表情で考え込む子どもの姿を見てすぐに答えを出すのではなく子どもの考えを引き出しながら導くおもしろさを私自身感じることもできた。 ・振り返りの中で、前回の活動が今回の活動へと繋がりより天気への理解が深まる姿をみることもできた。	実験1については日常の中でも何となく知っている現象だったかもしれませんが、改めてみんなで意識して観察したことで、これからの日常生活でもアンテナがピンと張るのではと期待します。 実験2は少し難しい取り組みですね。安全に気を付けながら、わくわくしながら変化を見守る表情が素敵です。結晶作りに失敗もして、それが成功のもとにもつながったのでしょうか。先生も『子どもたちみんなで実験の予測と結果が違った際、真剣な表情で考え込む子どもの姿を見てすぐに答えを出すのではなく子どもの考えを引き出しながら導くおもしろさを私自身感じることもできた。』という気持ちが素晴らしいです。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 だいち 組	9 月 19 日 (金)	諏訪 奈梨美

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの～野菜～ 食べているのはどこ？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
①の探究から、野菜の種の大きさの違いや植えたらどうなるのかななどに興味を示す		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:10-10:20	・食べている野菜は実・種・茎・葉・根どの部分なのか考える	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を認める 【準備物】 ・野菜カード ・野菜の絵本 ・野菜の図鑑 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・ホワイトボード、マーカー 【事前準備】 ・日頃から植物図鑑などで植物の名称に慣れる機会をつくる
10:20-10:40	・それぞれ調べたい野菜を決め、予想する ・自分の調べた野菜の絵やわかったことを紙に書く	
10:40-10:50	・1人ずつ発表する	

--	--	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・食べている野菜は実・種・茎・葉・根どの部分なのか考える ・それぞれ調べたい野菜を決め、予想する ・自分の調べた野菜の絵やわかったことを紙に書く ・1人ずつ発表する	【子どもの姿・声】 ・「ブロッコリーは花が咲くから花の部分を食べているのかな」とシェア畑で育てた経験を思い出す ・種の部分を食ベるといった考えがなかったのか、図鑑や絵本、iPadなどで調べたり話したりしているうちに「種って食べれるんだ」「確かにトマトの種食ベてる」と気づく ・「オクラでコーヒーを作ることができるらしいです」と発表する。聞いていた子どもたちが「えー！知らなかった！」と驚く。 【保育者との関わり】 ・子どもが興味を持った野菜を探究できるように必要に応じてiPadを用いて一緒に調べていく ・全体で発表する場を設けて、認められる喜びを感じていけるように声掛けをした

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・文字を読んだり書いたりすることが苦手な児の意欲を認めながら援助することで、本児が諦めることなく最後までやり遂げることができた。他児と比べることなく一人一人に向き合っていくことが大切であると改めて感じた。 ・みんなの前で発表することで、自分の考えや意見を受け止めてもらうことができ子どもたちが満足感を得ることができていた。	知識の多さにとらわれず、その子どもの得意な事や興味をうまくキャッチして素敵なアプローチができたと思います。 ブレップも同様ですが、先生の温かい気持ちがかどもの学びの可能性を広げ、先生自身もぐんぐんと力を付けていてとても素敵です。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 だいち 組	11 月 4 日 (火)	諏訪 奈梨美

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 色について知ろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
絵の具を使って紙粘土に色をつけたり、塗り絵で自分の好きな色を用いて表現したりすることを楽しむ。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
15:50-16:10	色はどんな色があるか考える。室内にある玩具を使って様々な色を集める。発表し合う。	【環境設定】・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を認める 【準備物】 ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・ホワイトボード、マーカー ・色の素材となるもの(野菜、公園で見つけた自然物など) ■参考資料 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤・カイガラムシ、青・ラピスラズリ、黄色・クチナシ、紫・アカニシ貝、白・ハマグリ、黒・墨) ・色彩心理学の見本 ・寒色暖色中性色の色見本 【事前準備】 ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙 16等分に切り分ける(人数分またはグループで1セット) ・色の効果、寒色暖色中性色について事前に学習して理解を深めておく ・色彩心理学の資料を準備し、理解しておく ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤・カイガラムシ、青・ラピスラズリ、黄色・クチナシ、紫・アカニシ貝、白・ハマグリ、黒・墨)
16:10-16:25	画用紙を見て、自分の好きな色を考え、発表する。(どうして好きなのか理由がある子は伝える。)	
16:25-16:45	色はどうやって作られているか(原料)考える。写真を見せながら伝える。 寒色、中性色、暖色の説明をし、見てどんな感じがするか話し合う。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・どんな色があるか室内探検をして玩具を集め、発表する。 ・どんな色が好きか発表し合う。 ・色はどうやって作られているか(原料)考える。写真を見せながら伝える。 ・寒色、中性色、暖色の説明をし、見てどんな感じがするか話し合う。	【子どもの姿・声】 ・虹色は7色混ざっているからきれいだね。 ・ゴールドが1番好きだけど、(画用紙の中に)ないから似ている黄色にしたよ ・白は真珠の色だから好き ・赤が虫でできていることを聞いて、「気持ち悪い」「虫から赤色ができるんだ」「すごい」とそれぞれの思いを話す ・青が鉱石でできていることを知り、「山に登って探してみたい」「どうやって石から色を出すんだろう」「溶かすのかな」「削るんじゃない?」「やってみたいね」とやりとりする 【保育者との関わり】 ・同色でも色のグラデーションがあることに気づいていけるように「この青と青何が違うかな」と声掛けをしていった。 ・子どもの気づきや発言に共感するだけでなく、どうしてもそうなるんだろうと探究を深めていけるように関わっていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・色の原料が虫や石、貝など身近なものから作られていることを知り、他の色はどうやって作るんだろうといった疑問が出てきた。派生していく疑問に正解を出すのではなく、子どもと一緒に調べていくことで探究の楽しさを感じていけると思った。 ・色の原料が何でできているか大人も知らないようなことを子どもたちが今回のすくわくで学び、その知識を嬉しそうに自分の保護者に伝えていた。そのやりとりの中で「すごいね」と褒めてもらい、達成感や探究心を深めたいという思いに繋がっていくと感じた。	全ての物にある様々な色。成り立ちを深めていく事で大人でも知らないようなことに出会ったのですね。この時期に不思議に感じたことや驚いたことが、のちの興味関心につながっていく事と思います。家族の方との話題にもあがって良かったです。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 だいち 組	2 月 9 日 (月)	諏訪 奈梨美

● 実施計画

活動テーマ		
おかね～おかねってなんだろう～		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
お正月にもらったお金がいくらだったかをお友だちと話したり、ほしいものを買ったりした時の話をした。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:10-11:00	・お金ってどんな色・形・模様をしているか考える ・模擬硬貨を子どもたちに渡して観察し、気づいたことをきく ・本物のお金を観察する ・オリジナルのおかねを自分たちで作ってみる 作ったお金と買い物かごを使って、お店屋さんごっこをする。 限られた予算の中で買いたい物、買えない物もある事を体験する。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を認める 【準備物】 ホワイトボード、マーカー、模擬硬貨、本物の硬貨、画用紙、色鉛筆 買い物かご

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・お金ってどんな色・形・模様をしているか考える ・模擬硬貨を子どもたちに渡して観察し、気づいたことをきく ・本物のお金を観察する ・オリジナルのおかねを自分たちで作ってみる ・お店屋さんごっこをして、予算の中で考えながら欲しい物を買う。	【子どもの姿・声】 ・ お金ってどんな色・形・模様をしているか子どもたちに問いかけてみると、「おじさんの顔がのっている」「10円玉は銅色」「お札は長い四角の形をしている」などと思い出しながら話していた ・お金によってお花の絵が違うことやいろいろな数字が書いてあること、小銭のまわりがギザギザしているものがあることなどに気づく姿があった ・お札の真ん中の丸の部分から顔が浮かびあがってきて「すごい出てきた！」と大興奮していた ・自分のお金を作っていくと「財布を作りたい」と子どもたちのイメージもどんどん広がっていった 【保育者との関わり】 ・子どもの気づきを受け止めていき、伸び伸びと意見を表現していけるように関わっていった。 ・子どものお金に対する興味関心が深まるよう模擬硬貨だけでなく、本物の硬貨を用意した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
模擬硬貨でじっくりと模様や形を観察した上で、本物の硬貨に触れることで重さや模様に変化する様子などにも着目することができていた。また、子どもの興味があることだったこともあり、声かけせずとも自分の気づきや考えを友だちと伸び伸びと交わすことができていたと感じた。 お買い物では予算内で目一杯買おうとする子もいれば、お金を大切にしておいて残して貯めようとする子もいて、それぞれの想いがあった。	子どもたちが大好きなお金がテーマとなり、みんな生き生きと参加していましたね。小さい時は見ているだけだったお金ですが、ご家庭でも手に触れ、使い方を教わり、実際に使ってみている家庭も多く、キャッシュレスも経験してごっこ遊びも変わってきました。 それぞれが気づいた事を自主的に発言し、被せて発言したくなる子もぐっと堪えて聴きながら待つ姿が多くなってきました。